

**外国語教育メディア学会(LET)  
第83回 (2014年度春季) 中部支部研究大会**

**プログラム**

**日時：** 2014年5月24日 (土) 10:30-16:50

**会場：** 愛知教育大学

〒448-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町

**主催：** 外国語教育メディア学会(LET)中部支部

**問い合わせ先：**

〒487-8501 春日井市松本町1200

中部大学 語学センター

外国語教育メディア学会中部支部事務局 小栗成子

電話：0568-51-6649

メール：支部サイト(<http://www.letchubu.net>)の「お問い合わせ」

Twitter: @LETChubu

## 日程

- 10:00 受付 第1共通棟3階  
10:00 展示 303講義室
- 10:30 開会行事 301講義室  
主催者挨拶： 尾関 修治 (LET中部支部支部長)
- 10:45-12:25 研究発表 304, 307, 308講義室  
<第1室> 304講義室  
(1) 10:45-11:15 (2) 11:20-11:50 (3) 11:55-12:25  
司会： 天野 修一 (静岡大学)  
石井 卓巳 (筑波大学大学院生)
- (1) 英語学習者の視覚・聴覚的語彙サイズと使用学習方略との関係  
天野 修一 (静岡大学)
- (2) ライティング・プロセス可視化コーパスのタスクデザイン  
石井 雄隆 (早稲田大学大学院生)  
石井 卓巳 (筑波大学大学院生)  
草薙 邦広 (名古屋大学大学院生)  
阿部 大輔 (名古屋大学大学院生)  
福田 純也 (名古屋大学大学院生)  
川口 勇作 (名古屋大学大学院生)
- (3) 日本人EFL学習者のエッセイを対象としたHyland List改訂に向けて：Metadiscourseの使用傾向の分析を通じて  
石井 卓巳 (筑波大学大学院生)  
小島 ますみ (岐阜市立女子短期大学)
- <第2室> 307講義室  
(1) 10:45-11:15 (2) 11:20-11:50 (3) 11:55-12:25  
司会： 江口 朗子 (名古屋大学大学院生)  
田畑 恵 (名古屋大学大学院生)
- (1) The relationship between L2 listening proficiency and L1/L2 phonological short-term memory in Japanese EFL learners  
江口 朗子 (名古屋大学大学院生)
- (2) 小学校外国語活動における教師のファシリテーション型の母語使用：児童の不安との関係  
畠山 直子 (岐阜経済大学非常勤講師)

(3) 高校生の音楽的適性と、英語のプロソディ処理能力との関連

田畑 恵 (名古屋大学大学院生)

<第3室>

308講義室

(1) 11:20-11:50 (2) 11:55-12:25

司会： 鈴木 薫 (名古屋学芸大学短期大学部)

村松 由起子 (豊橋技術科学大学)

(1) CALLを活用した自律学習支援プログラムの改善

鈴木 薫 (名古屋学芸大学短期大学部)

(2) 工学系留学生向け日本語学習コンテンツ開発のためのニーズ調査：

基礎専門語彙学習のための教材開発を目指して

村松 由起子 (豊橋技術科学大学)

矢島 邦昭 (仙台高等専門学校)

12:25-13:30

昼食

展示

303講義室

12:35-13:25

役員会

第1人文棟3階会議室

13:30-13:50

支部総会

301講義室

14:00-15:15

講演

301講義室

非グローバル化時代の英語教育—戦後史と社会統計から考える

講師： 寺沢 拓敬 (日本学術振興会特別研究員(PD))

講師紹介： 福田 純也 (名古屋大学大学院生・日本学術振興会特別研究員(DC1))

本講演では、戦後史と社会統計の2つの観点から、私たちが馴染んできた「当たり前」の英語教育観の相対化を試みたいと思います。

グローバル化が進んでいる”とされる”現代、英語教育の重要性はともすると疑う余地のないものと見なされがちです。この点に関して、私は、次の2つの問いを投げかけてみたいと思います。

問い1 英語教育の振興策は、グローバル化とどれだけ関連しているか？

問い2 日本社会は、実際のところ、どれだけグローバル化しているのか？

問い1については、拙著(『「なんで英語やるの？」の戦後史』、研究社、2014)を素材に、歴史的な観点から考えてみたいと思います。実は、選択教科だった中学校英語が、事実上の必修教科に「アップグレード」したのは1950年代、つまり、まったくグローバル化が進んでいない時代のことでした。このように、英語教育政策は、グローバル化ではなく、様々な政治社会的要因の相互作用によって進展することがあることをお示しします。

2014/5/24

問い2については、種々の社会統計から実態を明らかにしてみたいと思います。その結果、日本社会のグローバル化は、おそらく私たち英語教育関係者が考えているよりも、ずっと限定的だということがわかると思います。

以上、2つの相対化を踏まえて、より妥当性の高い英語教育目的とは何かを考察してみたいと思います。

15:20-16:50 シンポジウム 301講義室

グローバル化時代に対応した新しい英語教育

パネリスト：

伊與田 美智代（岡崎市立本宿小学校）

河合 智（愛知県総合教育センター 研修部企画研修室）

石原 久美子（愛知県立千種高等学校）

コーディネーター：

高橋 美由紀（愛知教育大学）

「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が文部科学省より提示されました。そして、新たな英語教育の在り方の実現のために、「指導用教材等の開発」において、ICT教材の開発・整備、教員研修用映像教材の開発・提供が、喫緊の課題として挙げられています（文部科学省:2013）。

本シンポジウムは、既に、ICT教材を使用して授業をされ、効果をあげていらっしゃる先生方から、具体的な内容をお話頂くとともに、今年度より取り組むこととなった「英語教育改革」にメディアが果たす役割について、パネリストの先生方と会場の参加者とともに考えていきたいと思っています。

17:20-18:50 懇親会

UP（ユーパー；第二福利施設内）



## 研究発表概要

<第1室>

発表1 英語学習者の視覚・聴覚的語彙サイズと使用学習方略との関係

天野 修一（静岡大学）

本発表は英語学習者の語彙学習方略と視覚的および聴覚的な語彙サイズとの関係を調査したものである。語彙学習方略と語彙サイズとの関係を調査した研究はこれまで主に、学習者が読んでわかる語彙、つまり視覚的な語彙サイズとの関係の調査であった。しかし、学習方略と受容可能な語彙サイズとの関係を検討するならば、聴いてわかる語彙も検討すべきである。なぜなら両者には相当の違いがあることが指摘されているからである。そこで本発表では、外国語として英語を学ぶ大学生を対象に、視覚的な語彙サイズだけでなく聴覚的な語彙サイズも併せて測定し、両者と学習者の使用する学習方略との関係を検討した。その結果、いくつかの先行研究と同様に視覚的な語彙サイズの方が聴覚的な語彙サイズよりも大きかったが、方略使用との関係においては両者に大きな違いは見られなかった。発表では、その詳細を報告するとともに、個人差の分析結果も考察し、報告する

発表2 ライティング・プロセス可視化コーパスのタスクデザイン

石井 雄隆 (早稲田大学大学院生)  
石井 卓巳 (筑波大学大学院生)  
草薙 邦広 (名古屋大学大学院生)  
阿部 大輔 (名古屋大学大学院生)  
福田 純也 (名古屋大学大学院生)  
川口 勇作 (名古屋大学大学院生)

本発表では、現在構築を進めているライティングのキー入力記録システムWritingMaetrix (WMX; 草薙・阿部・福田・川口, 2013)に基づく、ライティング・プロセス可視化コーパスのタスクデザインについて検討する。既存の学習者コーパスは、主に学習者のライティング・プロダクトを対象としたものであり、ライティング・プロセスに十分な焦点を当ててきたとはいえない。しかし、WMXで記録した学習者の産出過程のデータを大量に蓄積し、コーパス化することで、母語別・習熟度別の学習者のライティング・プロセスを横断的・縦断的に分析することが可能になり、またライティング・プロセス研究の追行研究のためのプラットフォームとなる可能性を持っている。そのようなWMXに基づくコーパス構築の要として、既存の学習者コーパスの成果や構築手順 (e.g., 藤原, 2014; 投野・杉浦・和泉・金子編著, 2013) に則りながら、タスクデザインについて検討する。

発表3 日本人EFL学習者のエッセイを対象としたHyland List改訂に向けて：  
Metadiscourseの使用傾向の分析を通じて

石井 卓巳 (筑波大学大学院生)  
小島 ますみ (岐阜市立女子短期大学)

実践的コミュニケーションに重点が置かれている近年の英語教育において、Metadiscourse (MD)の適切な使用は、自らの考えを円滑かつ効果的に伝えるために重要とされる。

MDは既存の談話標識の概念を拡張した言語項目の総称であり、読み手のテキスト理解を助けて解釈や評価を導く役割や、テキストにおける読み手と書き手の関係を明確化する役割を担う。

近年のMDに関する研究では、Hyland (2005)のInterpersonal modelに基づくHyland Listがおそらく最もよく使用されている。約500種類の言語項目を10種類以上のカテゴリーに分類した本リストは、分類基準や項目数の点から最も網羅的・包括的なMDのリストとされる一方で、学術論文コーパスを基準に編纂されているため、分析対象によっては改訂の余地がある。

本発表では、日本人EFL学習者のエッセイにおけるMDの使用傾向の分析を通じ、エッセイ・ライティングの研究・指導により適したHyland List改訂に向けての方向性を提案する。

<第2室>

発表1 The relationship between L2 listening proficiency and L1/L2 phonological short-term memory in Japanese EFL learners

江口 朗子 (名古屋大学大学院生)

The involvement of phonological short-term memory (PSTM) in language acquisition has been documented. However, little is known about what types of PSTM are related to L2 listening development. This study investigates the relationship between L2 listening proficiency and PSTM in Japanese EFL learners. Based on TOEIC listening scores, the 27 participants were sorted into two groups: 14 advanced learners (M = 457.5) and 13 intermediate learners (M = 352.3). To measure individual PSTM through oral repetition tasks, four types of test items were created: L2 sentences, L2 scrambled words, L1 sentences, and L1 scrambled words. The correlation analysis and t-tests showed that (1) L2 PSTM is significantly correlated with L2

listening proficiency but L1 PSTM is not; (2) a clear difference is observed between the two L2 proficiency groups in L2 sentence condition, but not in L2 word condition. The findings imply L2 syntactic knowledge contributes to L2 listening development.

## 発表2 小学校外国語活動における教師のファシリテーション型の母語使用：児童の不安との関係

畠山 直子（岐阜経済大学非常勤講師）

本研究は小学校外国語活動における教師の母語使用と児童の外国語不安との関係を明らかにする。児童の学習意欲、不安、教師の母語使用の三つの変数を用いて以下二点を目的とする。

第一に、児童の適度な不安が学習意欲を高めると仮定し、それはどのような状態かを明らかにする。第二に、第一の不安を保つためには、母語使用を適切に使用することが必要であると仮定し、その具体像を示す。

結果、以下三点が明らかとなった。第一に、児童の不安には否定的評価不安と外国語学習不安の二因子が存在し、高い学習意欲を持つ児童は、外国語学習不安が高不安であり、否定的評価不安は中程度である。第二に、教師は児童の不安を適度な水準に保つように母語を使用していた。第三に、このような教師の母語使用には、Direction型とFacilitation型の二類型が存在していた。児童の不安を適切な水準に保ち、目標言語への学習意欲につなげるためには、Facilitation型の母語使用が有用であることが示唆される。

## 発表3 高校生の音楽的適性と、英語のプロソディ処理能力との関連

田畑 恵（名古屋大学大学院生）

先行研究で、音楽適性と第二言語の音韻的短期記憶力や音韻認知力との関係が指摘されているが(Call, 1985; Gottfried, 2007; Sleva & Miyake, 2006)、具体的にどのような音楽的側面が、どのような第二言語の音韻処理の側面と関係しているのか、また、それは言語によって異なるのかについてはまだ明らかになっていない。

そこで本研究では、リズム感・音感という二つの音楽適性が高い日本人の高校生は、英語プロソディ処理能力が高いという仮説を立て、検証を試みた。

調査では、高校1・2年生を対象に、第二言語プロソディ処理能力を、①句の切れ目、②語の強調、③抑揚、④韻律などの観点から、音楽適性をリズム感・音感の観点から評価した。評価に用いた言語プロソディ処理能力テストは、上記①～③の認知を測るPEPS-C(2012)の下位テストと、④についての個別言語プロソディ識別テストである。音楽適性テストには、Gordon(1979)のリズムテストと音感テストを用いた。6つのテストデータ間の相関分析を行った結果、音楽適性テストと第二言語プロソディ処理テストには中程度の有意な相関が認められた。また、重回帰分析の結果、音楽適性のうちリズム感は第二言語プロソディ処理能力の一部の側面に対して有意な説明力がある反面、音感については有意な説明力がないことが明らかになった。

## <第3室>

### 発表1 CALLを活用した自律学習支援プログラムの改善

鈴木 薫（名古屋学芸大学短期大学部）

筆者は、CALLを活用した自律学習支援プログラムを、数年にわたり実施している。これまでに実践してきた取組を紹介し、改善のための工夫と今後の展望について報告する。授業と連携したプログラムと、授業から独立した自由参加型プログラムを比較し、学習管理・ドロップアウト・学習達成度などにおける相違について報告する。さらに、履修科目・学習対象者・教材の選択方法の違いや、学習カウンセリングやチューターの有無による影響についても明らかにするとともに、学習成績ファイルの活用・ペーパー教材の併用・学習者の感想についても触れる。共通の英語力診断テスト

を用いて効果測定を実施しているプログラムは、学習効果について比較する。学習管理やサポートにより、学習意欲が引き出され、最終的には教師やチューターに依存することなく、自律的に学習を進める習慣を形成することにより、英語力の向上が観察された事例を報告する。

発表2 工学系留学生向け日本語学習コンテンツ開発のためのニーズ調査：基礎専門語彙学習のための教材開発を目指して

村松 由起子（豊橋技術科学大学）

矢島 邦昭（仙台高等専門学校）

留学生が日本の大学で学ぶ際に必要とされる専門日本語には、大学レベルのアカデミックな日本語や専門語彙以外に、中学・高校の段階で学ぶ専門性の低い日本語がある。工学系留学生の場合、研究室において、後者の知識不足が研究指導の支障になることがあるため、本研究ではタブレット型端末を用いた工学系留学生向けの基礎専門語彙学習教材を試作した。さらに、試作した教材を留学生4名に使用してもらい、留学生のニーズに適合しているかについてアンケート調査を行った。教材の試作に当たっては、事前に留学生7名を対象に、中学理科の単元から一部を抜粋して語彙知識に関する調査を行い、実際に「粉末」「ぶくぶく」「べたつく」などの語彙知識の不足を確認した。試作した教材に関するアンケート調査では、タブレット型端末を使用する利点、使用への意欲の他、基礎的な語彙であっても留学生本人は必要性が低いと判断する場合があることが示された。

### 賛助会員展示

チエル株式会社

<http://www.chieru.co.jp/>

株式会社 J V C ケンウッド

[http://www3.jvckenwood.com/products\\_business.html](http://www3.jvckenwood.com/products_business.html)

電子システム

<http://densys.jp>

(受付順)

### 大会参加のご案内

- 会員の方の参加費は無料です。非会員の方は参加費1,000円を受付でお支払い下さい。
- LET会員として入会手続きをしていただきますと、当日参加費から無料になります。また会員は、LET全国研究大会、支部研究大会での研究発表、紀要への投稿などができます。

### 外国語教育メディア学会第54回全国研究大会のご案内

- 外国語教育メディア学会(LET)第54回全国研究大会は、2014年8月4日（月）から6日（水）まで、福岡大学で開催されます。
- プログラム等の詳細は大会サイトでご確認ください：<http://www2.j-let-ko.org/htdocs/>
- 参加登録、発表要項の購入、懇親会の参加が事前申し込みとなっていますのでご注意ください。

### 第84回（2014年度秋季）支部研究大会のご案内

- 次回の支部研究大会は11月22日（土）、静岡大学浜松キャンパスにて開催します。
- 研究発表の受付は2014年9月ごろに支部Webサイトにてご案内します。

LET中部支部Webサイト：<http://www.LETChubu.net/>